



文責
伊平屋村
教育委員会
松田 哲市



「東大塾」を二日間開催 〜沖縄県緊急共同メッセージ発出により二日間で中止〜

令和三年八月二日(月)に東大塾(小六年〜中三が参加)開講式を行い、九日間の東大塾がスタートした。前年度は、新型コロナウイルスの影響で開催を中止、今年度はオンラインを利用した東大生による授業を企画、準備を進め、開催に至った。

開講式の後、児童・生徒は各クラスに分かれ、クラス開きを行い、担当する東大生との顔合わせや自己紹介、クラスのルール決めなどを行った。その後は、算数(小6)・数学(中学生)のレディネステストを行った。午後の授業は、東大生による講話「カタリバ」が行われた。「カタリバ」では、東大生四名が各自テーマを持って、自分のこれまでの人生や東京大学へ進学した理由、東京大学での研究内容等、興味深い講話をして頂いた。児童・生徒は真剣な表情で、東大生の講話に耳を傾けていた。

東京大学の学生の考えに触れる

【東大塾に参加した講師の皆様】

1 東大塾コーディネーター

・新里 利和 先生

2 東大生(8名)

【中3担当】

- ①嶋村 綾先生(教養学部4年)
- ②須貝立暉先生(前期教養学部2年)
- ③アイヤ・ドゥルーヴ先生(工学部3年)

【中2担当】

- ④志田 美菜先生(医学部3年)
- ⑤旭 博佑先生(工学部3年)

【中1担当】

- ⑥渡邊玲奈先生(工学系研究科修士1年)
- ⑦古森 心先生(前期教養学部2年)

【小6担当】

- ⑧佐藤 郁先生(教育学4部年)

3 てるしの塾講師

- ①小川 宣長 先生 ②西筋 勇悟 先生
- ③中塩屋 省伍 先生

4 伊平屋小学校

・与那覇 靖枝 先生【小6担当】

二日目は、オンライン授業を体験

〜コロナ禍でも子ども達の学びを止めない取り組み〜

令和三年八月三日(火)の東大塾二日目の午前中は、前日のレディネステストを返却し、東大生によるテスト問題の解説をして頂いた。東大生は東京の自宅からオンラインで授業を行い、児童・生徒は、パソコン端末一人一台(小六は二人で一台)とヘッドセット(マイク)を活用して、東大生からの説明を聞き、分からない問題については質問を繰り返しながら、理解を深めた。午前中の授業終了後、児童・生徒に感想を聞くと「楽しかった」「分かりやすかった」と満足した表情で答えていた。午後は、午前中の復習(算数・数学)などを行った。

三日目からは、県内感染者急増による沖縄県緊急共同メッセージ発出を受け、九日間予定の東大塾は二日間で中止となった。しかし東大塾の成果はあったと確信している。「短期間ではあったが、児童・生徒は、東大生と出会い、東大生の考え(思考)に触れたこと」、「児童・生徒の学ぶことへの意欲喚起に繋がったこと」、「オンライン授業の可能性を実証できたこと」などが挙げられる。

東大塾開催までには、多くの方々のご支援があったことを繰り返し児童・生徒に伝えてきた。特に授業の準備などに多くの時間をかけ、取り組んで頂いた東大生はじめ、講師の皆様には心より感謝したい。



オンライン授業で学ぶ子ども達